

グラフで見る関西経済 (2020年10月)

2020年10月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる

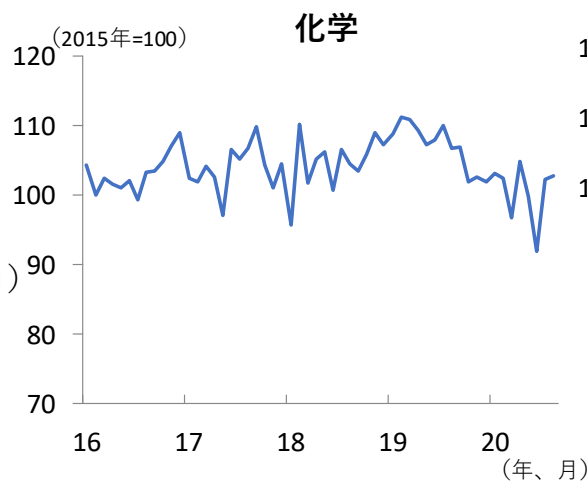
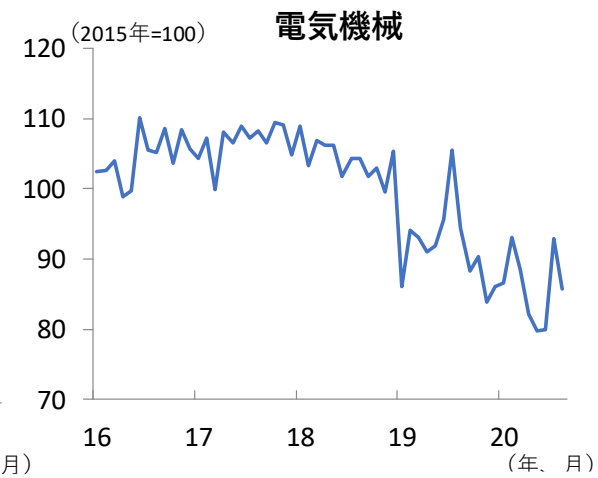
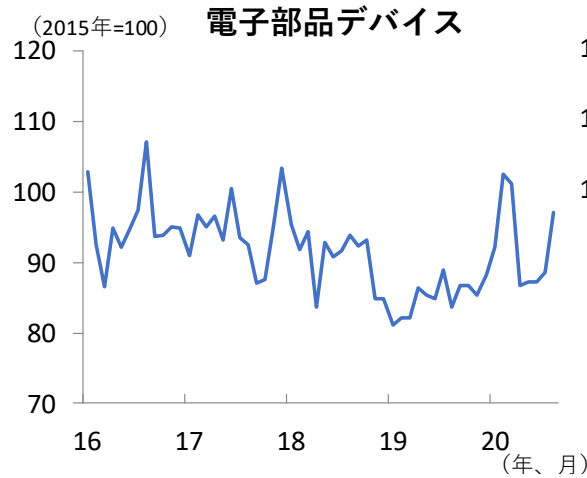
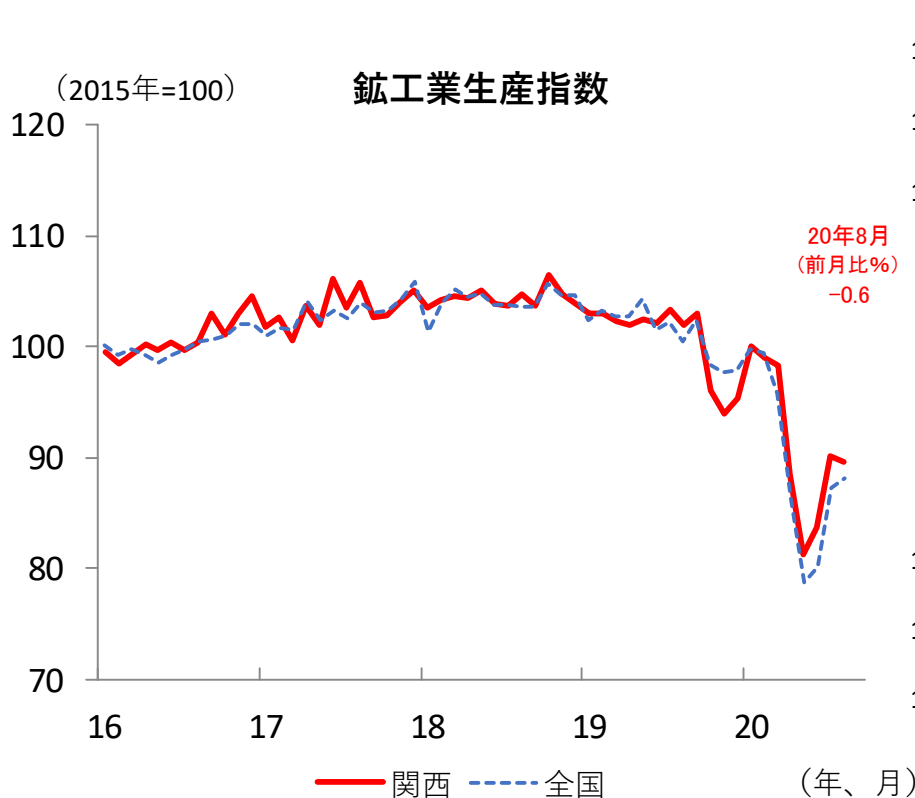
【今月のポイント】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、足下の指標は総じて厳しい水準にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。
- 生産は3ヶ月ぶりに前月比減少。電気機械、汎用・生産用・業務用機械が減少した。
- 輸出は名目前年比では減少が続くが減少幅は縮小。季節性を調整した実質前月比では4ヶ月連続で増加。
- 設備投資は前年比での増加を見込むが、増勢は鈍化。
- 個人消費関連指標は、小売販売の減少が続くが減少幅は縮小傾向。下げ止まりの動きがみられるものの、インバウンド蒸発の影響で全国に比べ弱い動き。

項目	現状
景気全般	新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる
生産	持ち直しの動きがみられる
輸出	持ち直しの動きがみられる
設備投資	増勢が鈍化している(↓)
雇用	弱い動きとなっている
賃金	弱い動きとなっている
個人消費	下げ止まりの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる
公共投資	横ばい圏で推移している

生産

8月の鉱工業生産は前月比-0.6%と3ヶ月ぶりに小幅減少した。電気機械、汎用・生産用・業務用機械などが減少した。前年比では-13.5%減。先行きについては持ち直しが見込まれる。

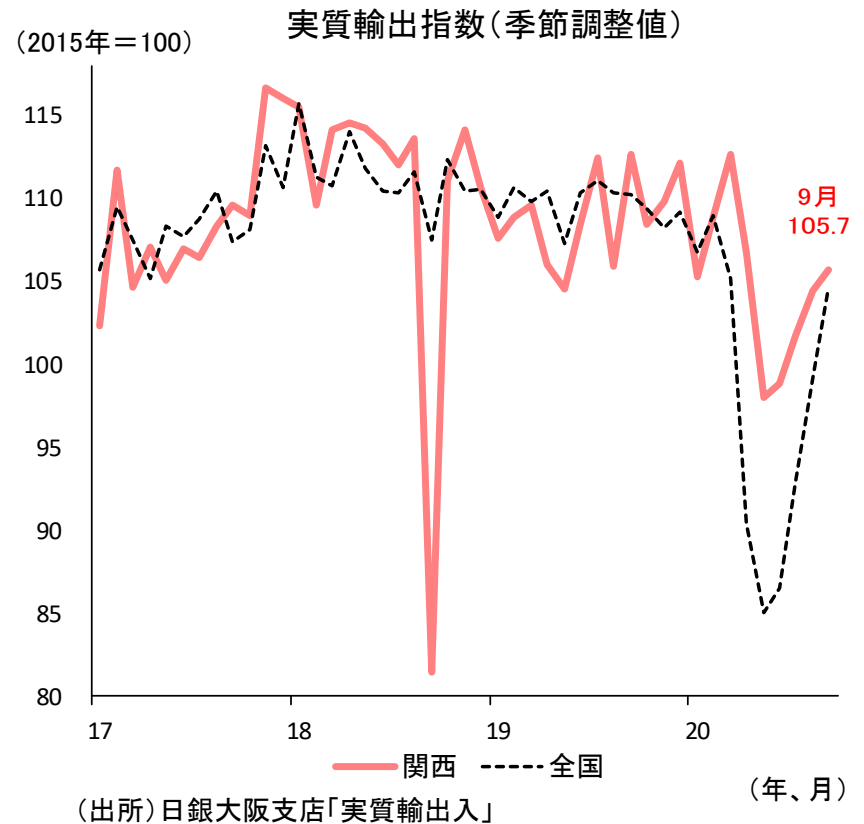
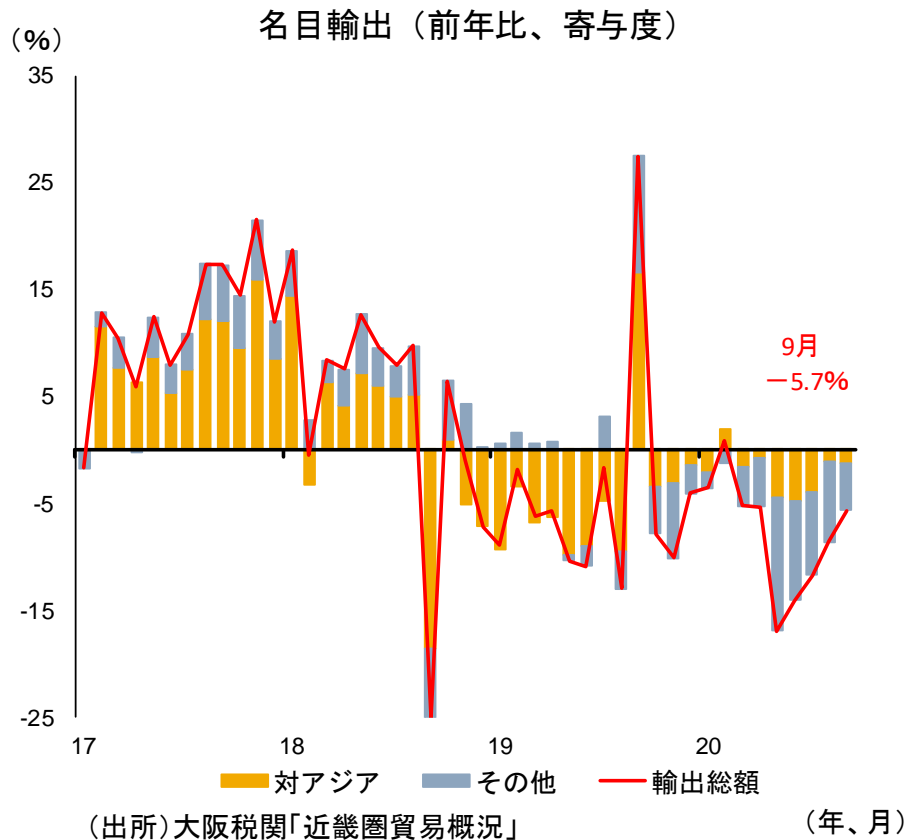


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

9月の名目輸出額は前年比-5.7%と7ヶ月連続で減少した。鉄鋼、鉱物性燃料が減少し、小幅ではあるが全国(同-4.9%)を上回る落ち込みとなったが、減少幅は縮小してきている。

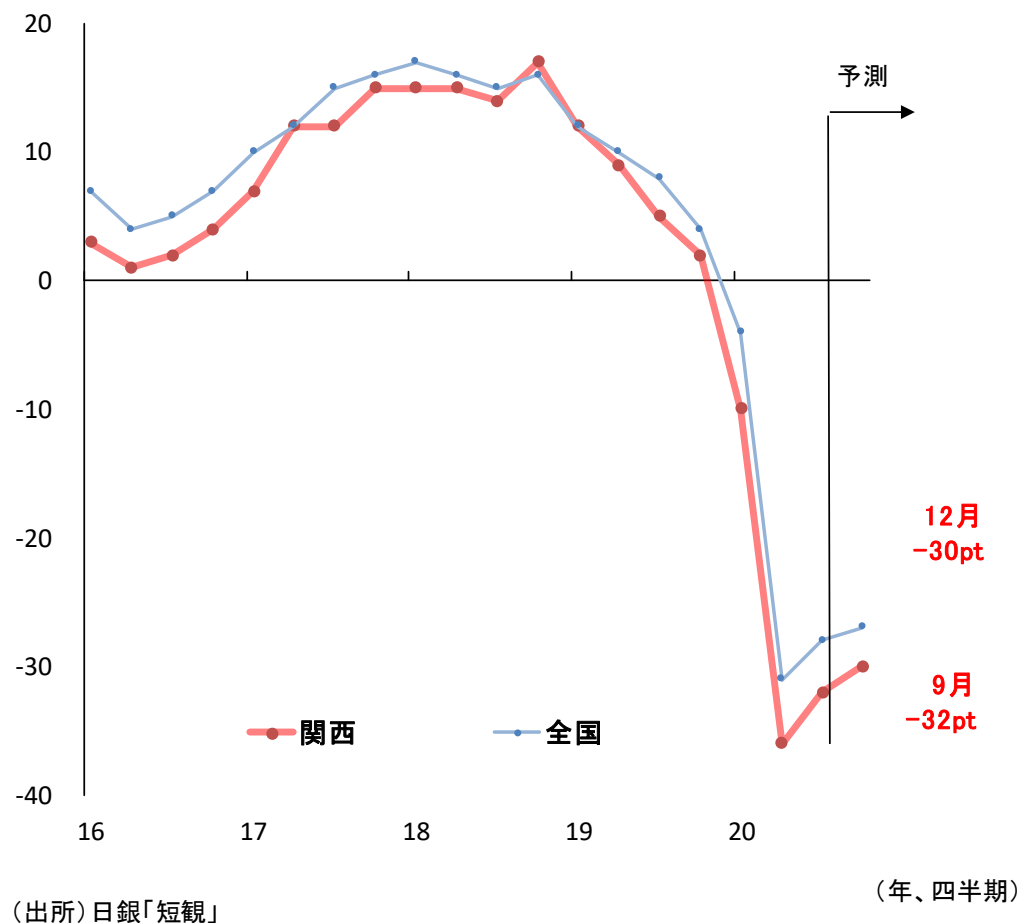
9月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比+1.2%と4ヶ月連続で上昇した。



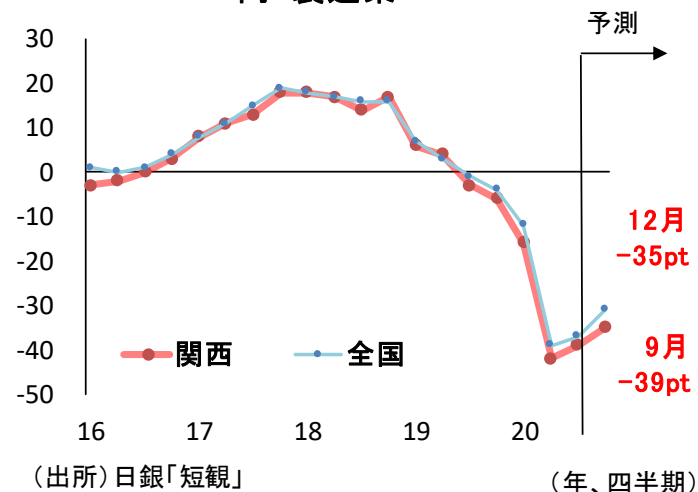
企業景況感(日銀短観)

日銀短観9月の業況判断DIは全産業で-32ptと6月から改善。製造業は-39pt、非製造業は-25pt。先行き(12月)については、全産業、製造業は改善、非製造業は悪化が見込まれている。

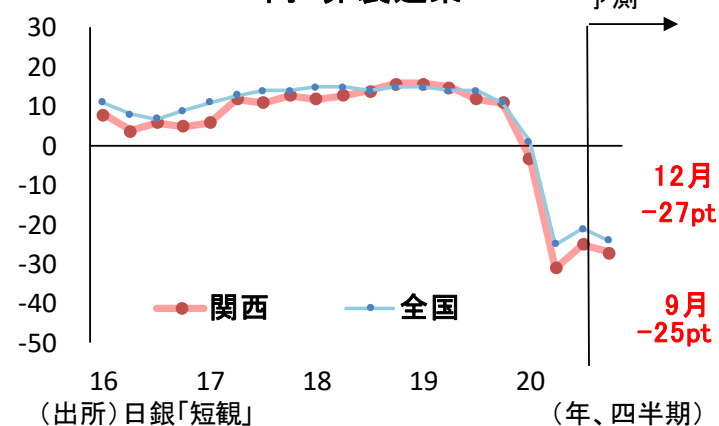
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業

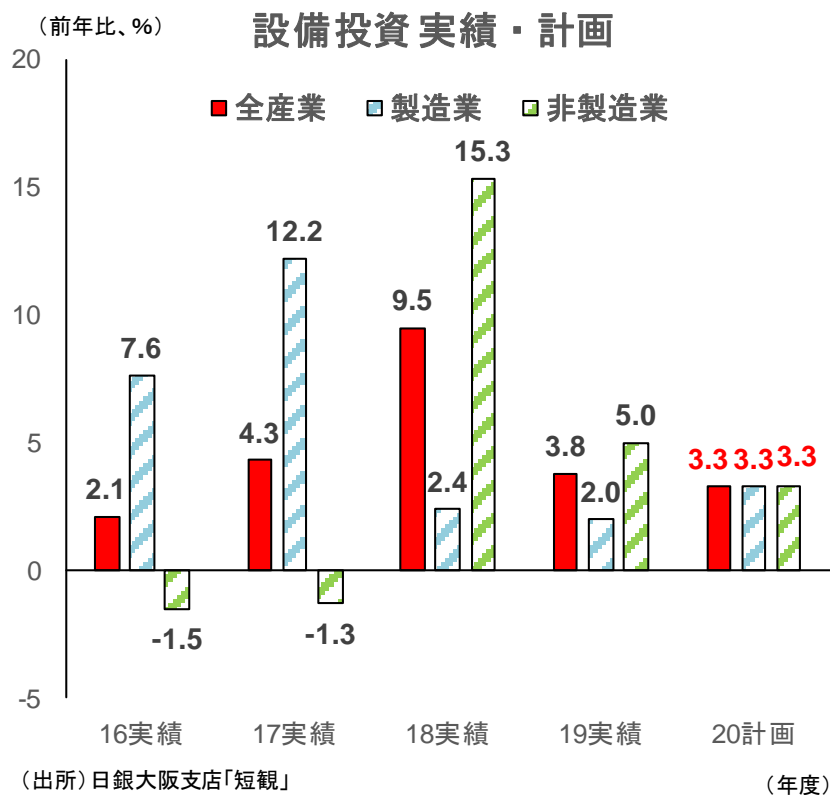


同 非製造業



設備投資

日銀短観9月調査によると、20年度の設備投資(計画)は前年比+3.3%の増加が見込まれている。製造業、非製造業ともに+3.3%増加の見込みであるが、いずれも6月調査に比べ下方修正となった。宿泊・飲食サービスが同-34.6%と大幅減が見込まれている。



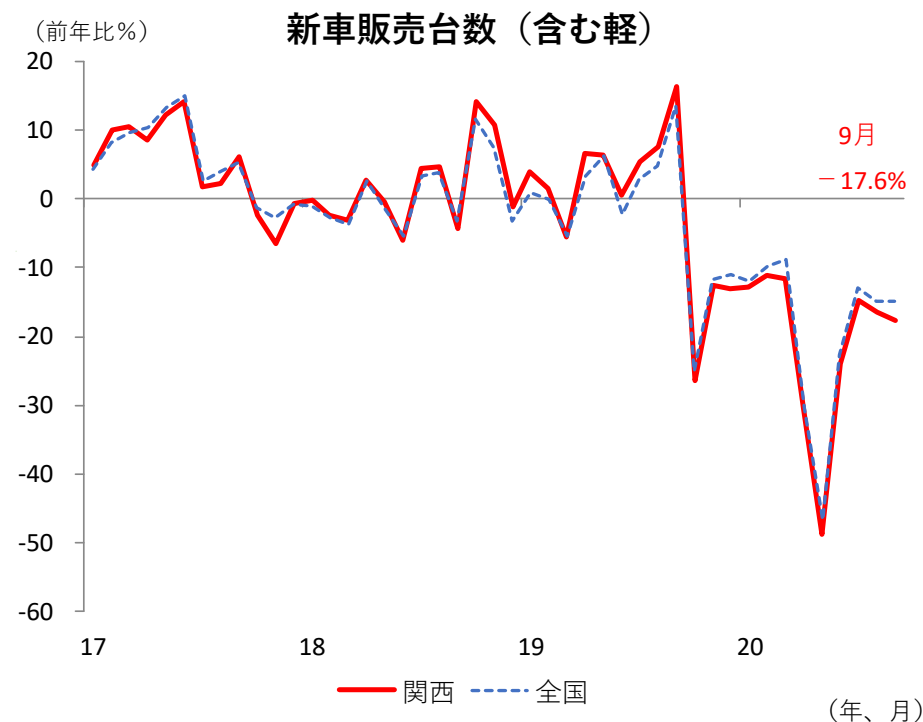
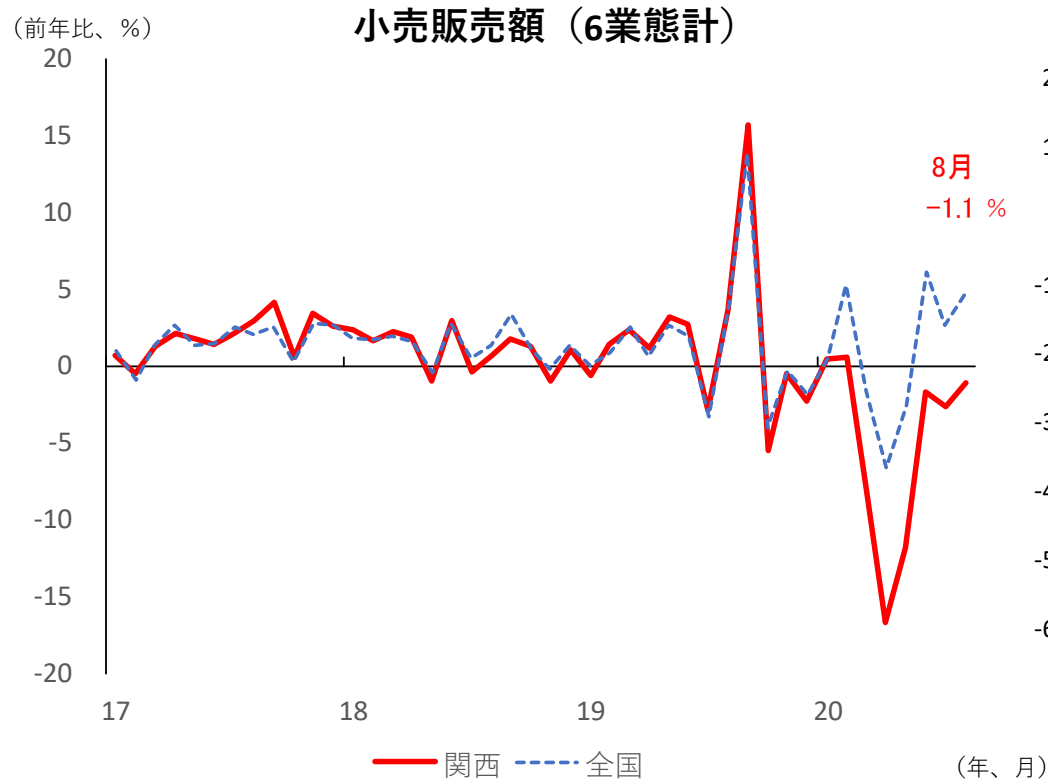
設備投資額(前年比%)

	19年度実績	20年度計画	
		今回	6月調査時 [差異]
全産業	3.8	3.3	6.9 -3.6
製造業	2.0	3.3	6.6 -3.3
非製造業	5.0	3.3	7.1 -3.8

個人消費(小売売上、自動車販売)

8月の小売販売額は、前年比-1.1%と6ヶ月連続で減少、全国と比べて弱い動きが続いている。インバウンド蒸発の影響が大きい。

9月の新車販売は、前年比-17.6%と減少が続いている。



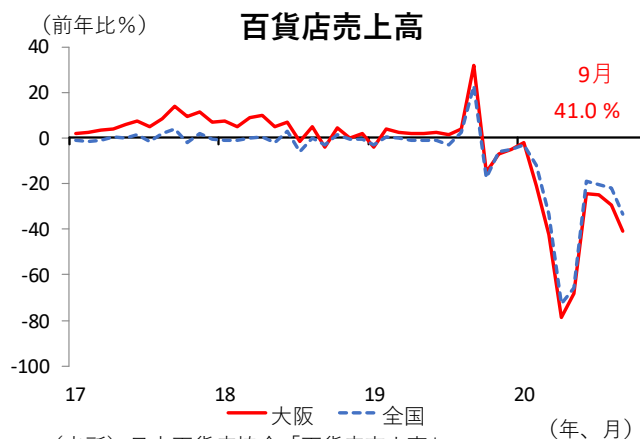
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

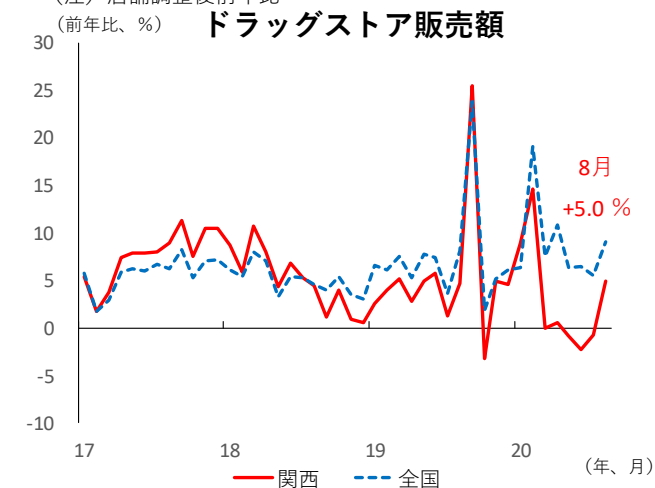
個人消費(業態別)

9月の百貨店売上(大阪)は、インバウンド蒸発の影響で前年比-41.0%と大幅減が続く。前年同月が消費税率引き上げ前の駆け込みがあったことも減少幅の拡大につながった。免税売上は入国制限により引き続きほぼ消失状態。8月のドラッグストアは4ヶ月ぶりにプラスに転じた。家電は4ヶ月連続で増加。

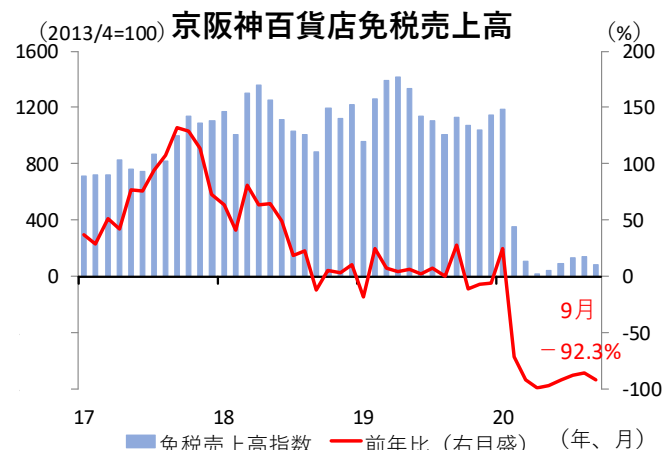


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

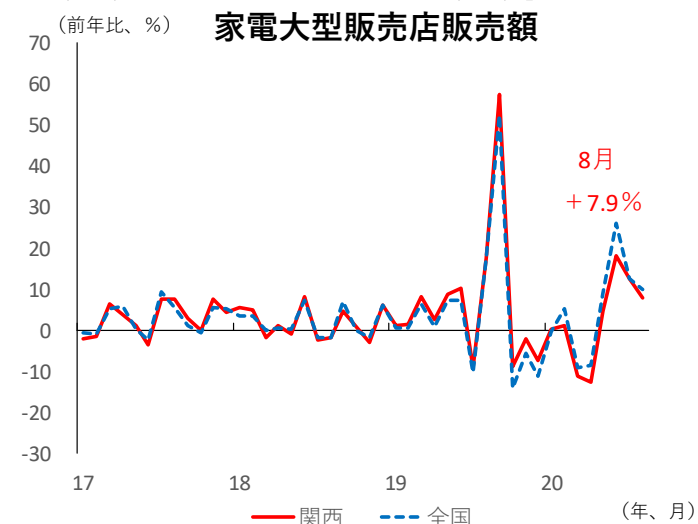
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」



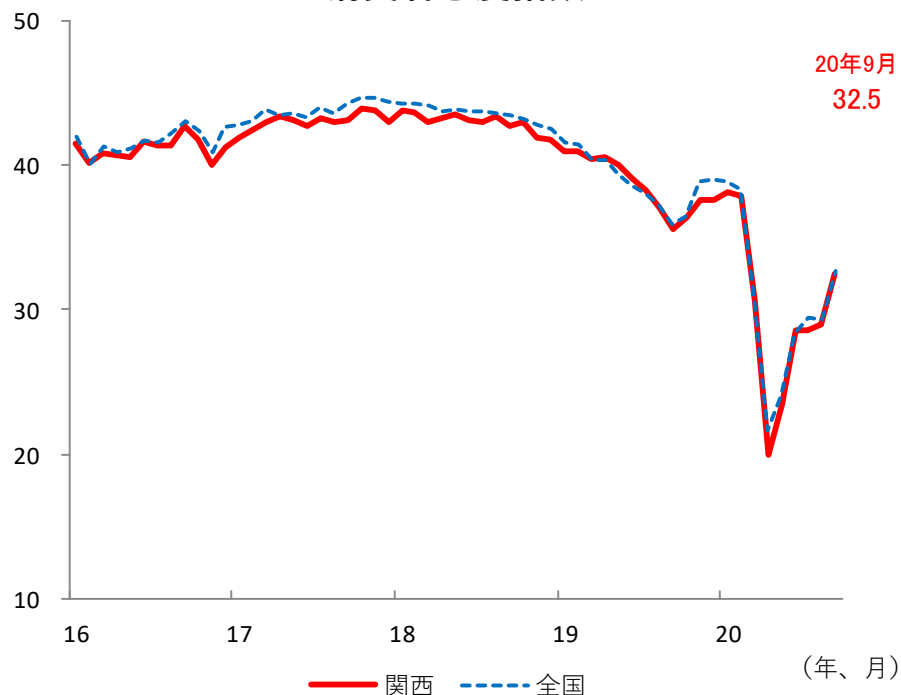
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

マインド・景況感

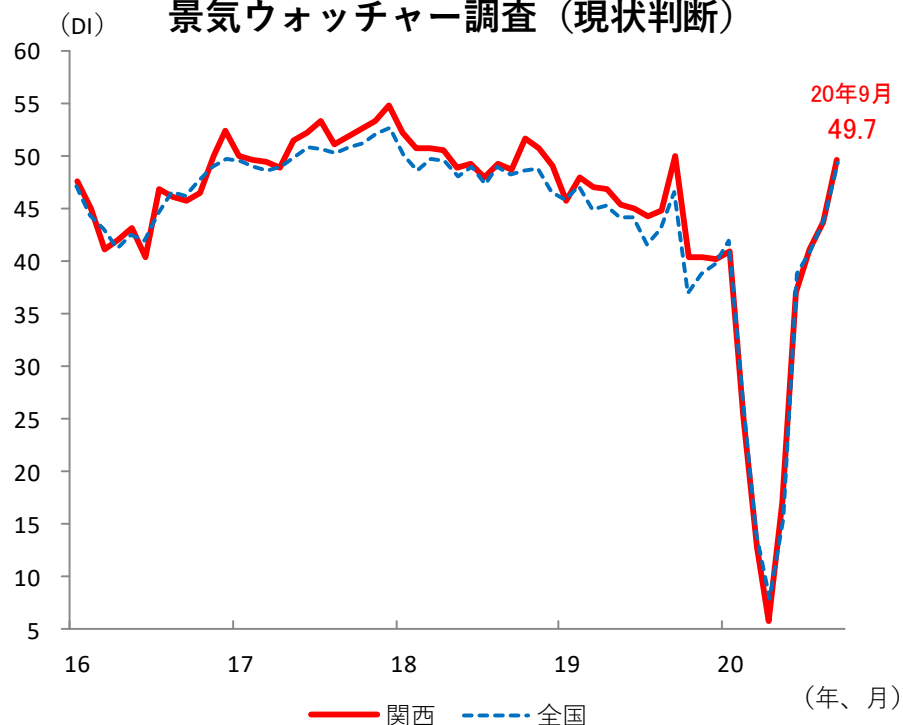
9月の消費者態度指数(季節調整値)は32.5 と前月より上昇。

景気ウォッチャー調査の現状判断DI(季節調整値)も49.7 と5ヶ月連続で上昇、前年同月(50.0)並みの水準まで戻している。

消費者態度指数



景気ウォッチャー調査 (現状判断)



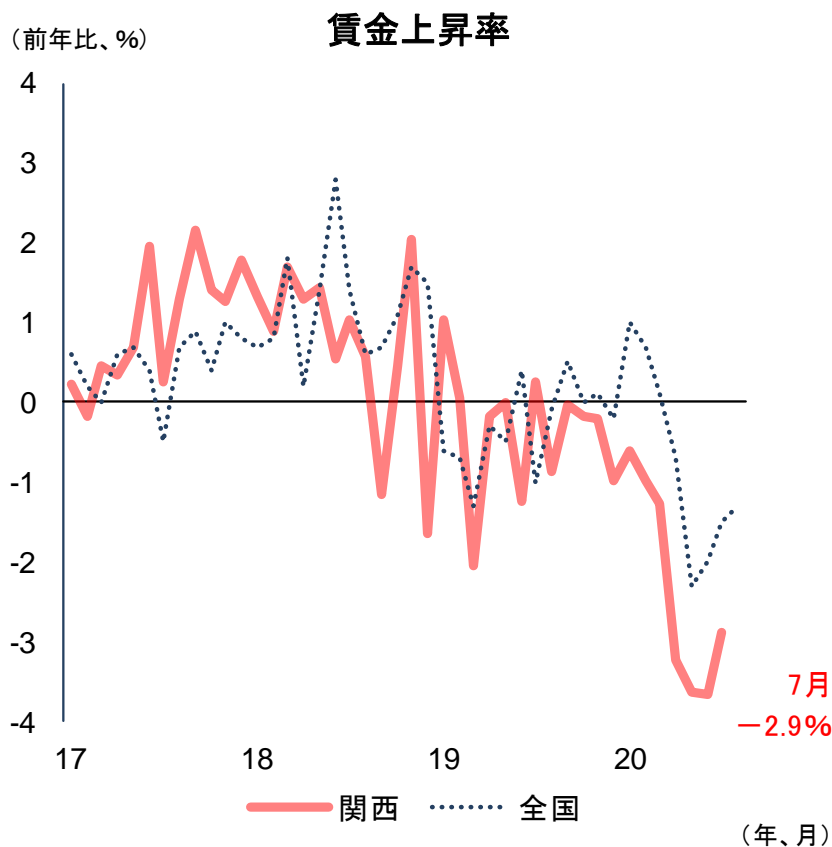
(注)関西の季節調整値はMURC試算

(出所)内閣府「消費動向調査」

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

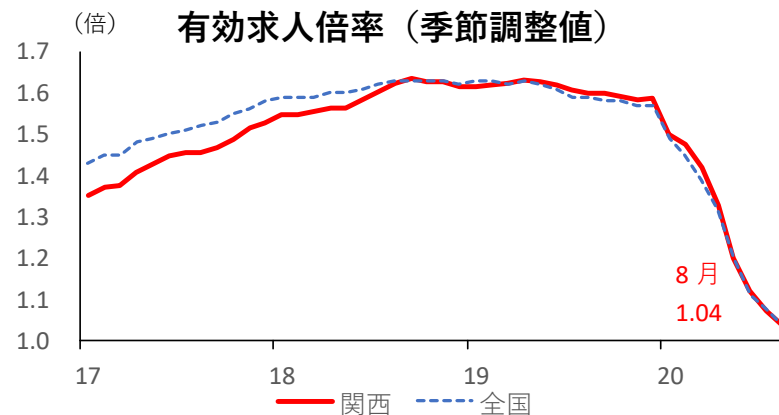
賃金・雇用

7月の名目賃金指数は、前年比-2.9%と12ヶ月連続で前年比減。賃金動向は弱い動きとなっている。
 8月の有効求人倍率は1.04倍と8ヶ月連続で低下。求人数が増加したが、求職者数も増加した。20年第2
 四半期の失業率は3.0%と前期から上昇。就業者数も減少した。

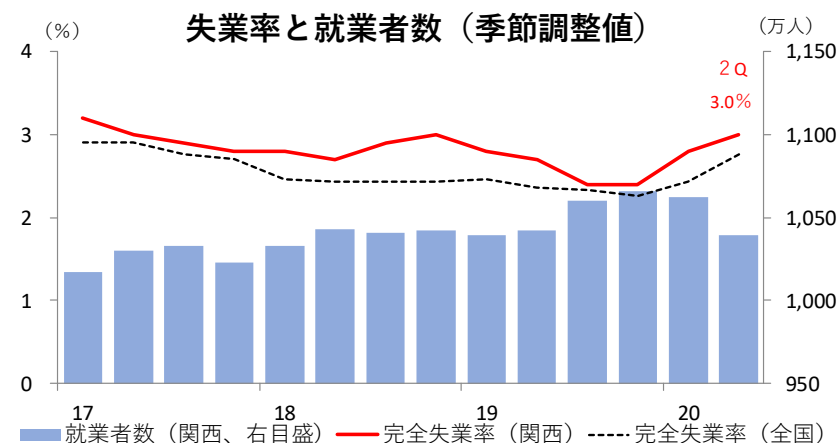


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

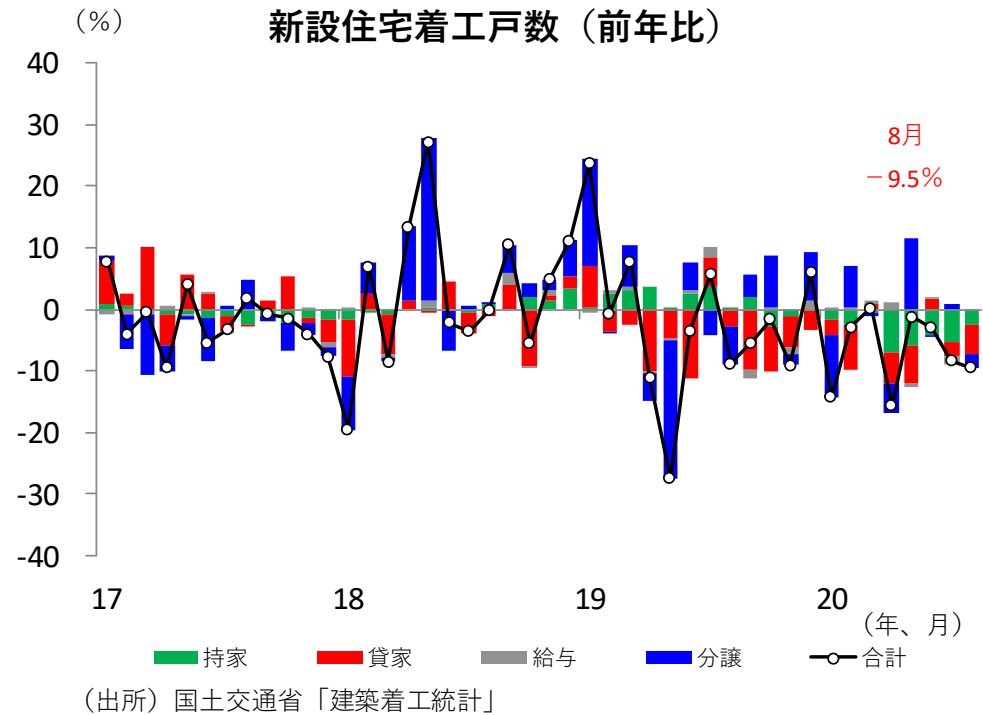
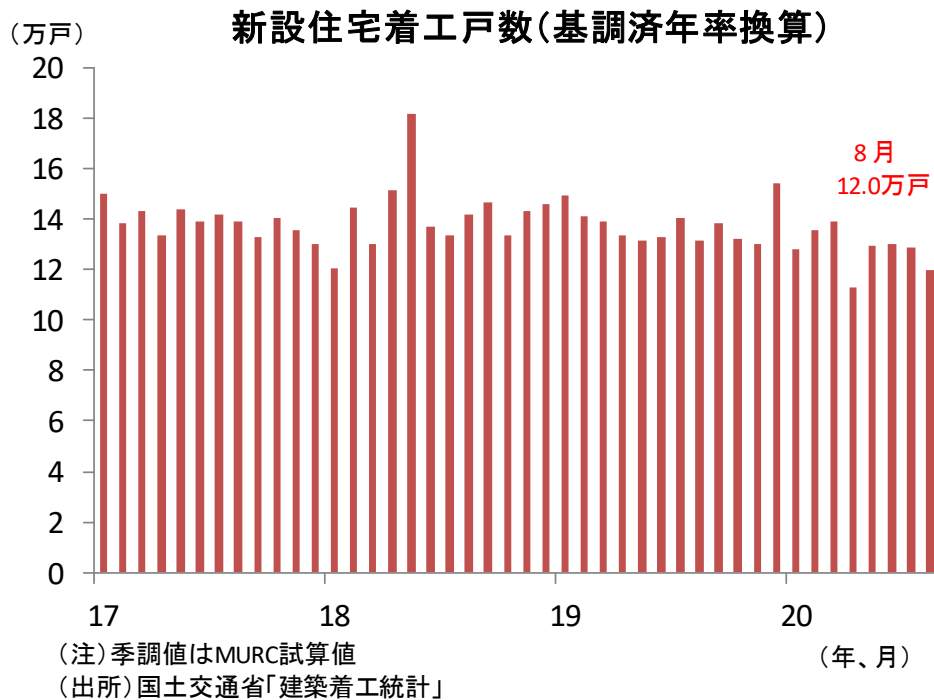


(出所) 総務省「労働力調査」

(年、四半期)

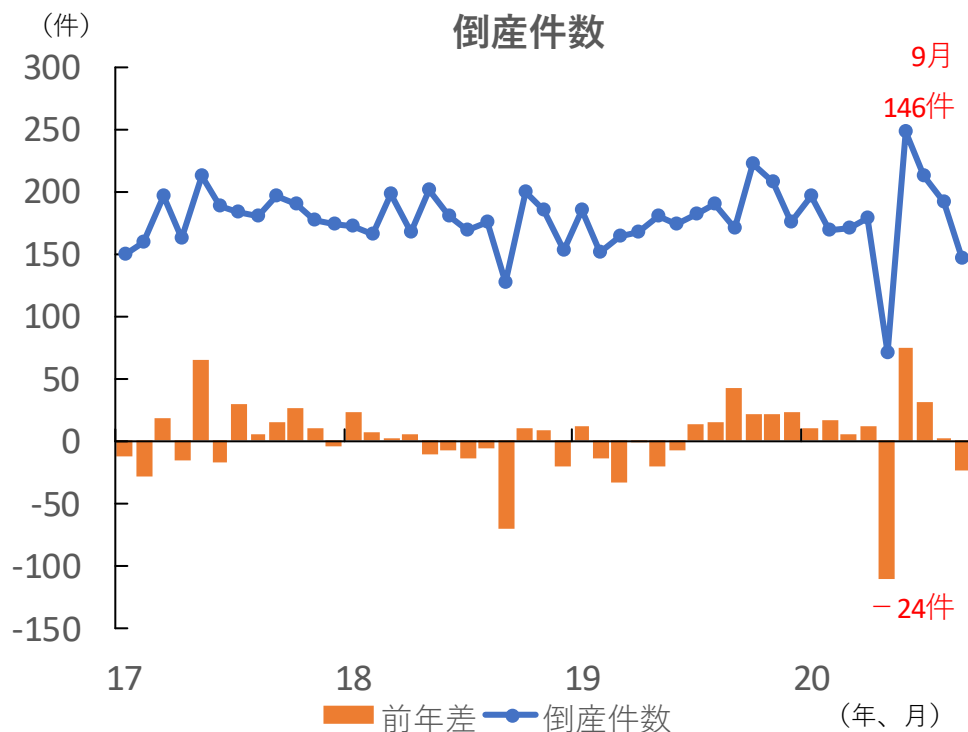
住宅投資

8月の住宅着工は季調・年率12.0万戸、前年比では-9.5%となり、弱含んでいる。持家、貸家、分譲いずれも減少した。



倒産

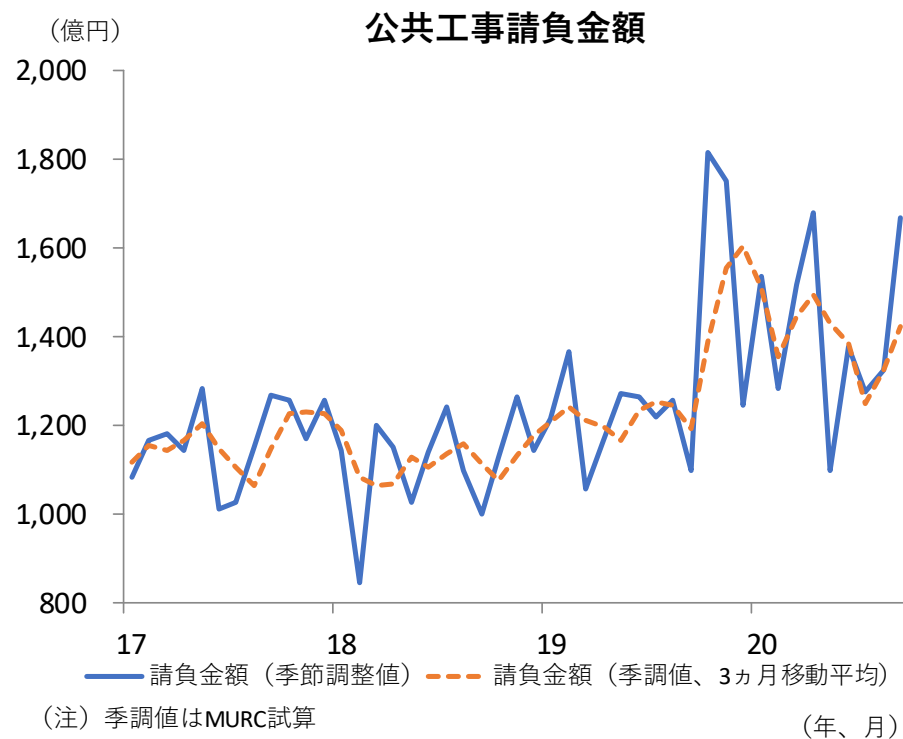
9月の倒産件数は146件(前年差-24件)と、前年に比べ低水準。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

公共投資は横ばい圏で推移している。



(注) 季調値はMURC試算

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください